

# 春風秋霜

3月号

令和2年3月2日  
島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

総理大臣の突然の発言を受けた3月2日からの全校休業により、各学校に混乱や厳しい対応を強いたことを大変申し訳なく思っています。国からの事前の説明や、対応に対するエビデンス不足もあり、教育委員会としても苦慮したところです。

突然の長期休業による課題は様々ですが、子供の視点に立った対応をお願いいたします。特に心配な未履修については、休業中の適切な課題設定や、次年度への引継ぎを確実にすることによって対応願います。卒業式等については縮小を考えなくてはなりません、学校規模等を考慮し、安全に配慮したうえでの判断をお願いいたします。

## 1 令和元年度末人事について

3月は人事異動の時期です。毎年のことながら、県内・静西管内・志太地区内・島田市内の状況により、希望の如何にかかわらず異動をお願いすることがありますので、ご理解をお願いします。

異動すると様々な変化に対応しなくてはなりません。異動先の学校には、その学校の伝統や文化があるからです。しかし、子供を中心に考えるということは変わりません。また、島田市が大切にしてきた「個に焦点を当てた授業」や「夢育・地育」の方向は正しいと思っています。これまでの勤務校で培ったものを、異動先の学校でも発揮することを願っています。

私も、校種変更や身分切り替えを伴う異動を経験してきました。その度に苦労することもあり、時には転職したかのように思うこともありました。しかし、与えられた場所(学校や分掌)で全力を尽くせば、結果として自分の新しい一面が伸びたり、人的ネットワークが広がったりすると思います。異動をスキルアップに繋げるよう皆さんの活躍を期待しています。

## 2 コミュニティ・スクールの実施について

来年度から市内全校でコミュニティ・スクール(CS)が動き始めます。これまで行ってきた「夢育・地育」の発展ととらえ、信頼される学校づくりを地域と協働して取り組むことだと理解していただけたらと考えます。

CSにおいては、これまで以上に地域の教育力や地域資源の活用が進むと思います。そのため、コーディネーターの存在が欠かせません。コーディネーターと連携し、地域の力を活用できたらと思います。

平成21年度に行われた和文化教育の全国大会において、梶田叡一氏は「接遇で心がけることは、見送り7分」という話をしました。本当に心のこもった接遇は、帰り際の見送り方に現れると言うのです。どんなに歓迎されても、ドアを出たとたんにボタンと戸を閉められたら気持ちの良いものではないからです。

1月30日(木)に行われた日本体育大学との連携協定締結式において、染谷市長は松浪健四郎理事長一行を見送る時、玄関まで同行しただけでなく、氏が同乗した車が見えなくなるまで見送りをしていました。この姿を見て、梶田氏の言葉を思い出しました。

少しの配慮が、学校の評価や信頼につながります。CSにより外部人材がこれまで以上に校内に入ることになります。外部の人たちに気持ちよく活動してもらい、学校の良さをたくさん発信してもらえば、CSは成功につながっていくと思います。

### 3 日本体育大学との連携協定について

1月30日（木）に行われた日本体育大学（日体大）と島田市との連携協定締結式が行われました。今後、日体大と島田市は、健康増進や体力向上などにおいて互いに協力し合うことで合意しました。

各学校は、トップアスリートの夢育講演や体育の実技指導などにおいて、「夢育・地育推進事業交付金」を活用した日体大からの講師派遣が容易になりました。講師派遣を考える場合は、教育委員会に相談願います。

### 4 書初め展表彰式から

1月26日（日）に行われた書初め展表彰式で、「書初めは大切にしたい正月行事」と話したところ、娘から「聞いた瞬間、なぜ正月と書初めが結びつくのか分からなかった。」と言われました。

書初めは、新年の思いを込め書くものと思い込んでいた自分と、書初めといっても12月に練習をして出品する子供たちとの間に認識のずれが生じていたのだと思います。以前、「季節の行事を大切にしたい」という教育委員会からの提言を出していますが、世代間のずれがあったかもしれません。

1月の学校便りの中には、「七草がゆ」「小豆がゆ」「鏡割り」など、正月行事を説明したものもあり、日本の文化を大切にしている学校の姿勢をうれしく思いました。今後も季節の行事を伝える努力をお願いいたします。

## 肘かけ椅子

又平 剛 博物館長

### 「博物館で1文化」

今年度、博物館課へ配属され早1年、公務員生活の中で初めて教育部への異動。正直、博物館へもあまり行ったことがなく、言うまでもなく文化とは程遠い人間でした。「自分は何をすればいいのか？」「何ができるか？」と、とても不安でしたが、今では「あれもしたい！これもしたい！」という気持ちで、「博物館は面白い！」に変わっています。

博物館は年間を通じ、収蔵品展や企画展、様々のイベントを開催しています。「博物館は堅苦しい」なんてイメージではありませんか？これからの博物館は、市民に親しまれる博物館を目指し、世の中のニーズに合った企画展やイベント等を開催し、博物館に興味を持ってもらえるような取り組みを行っていきたくと意気込んでいます。人それぞれ感性は違いますが、今までと違った博物館を見せながら、今までどおり島田市の文化芸術も伝え、「来てよかった！」「楽しかった！」と満足していただけるような博物館にしたいと思っています。

「市民ひとり1文化」ぜひ博物館で「1文化」してみませんか？これからの博物館は、一味も二味も違うかも！？皆さまのお越しをお待ちしております。